

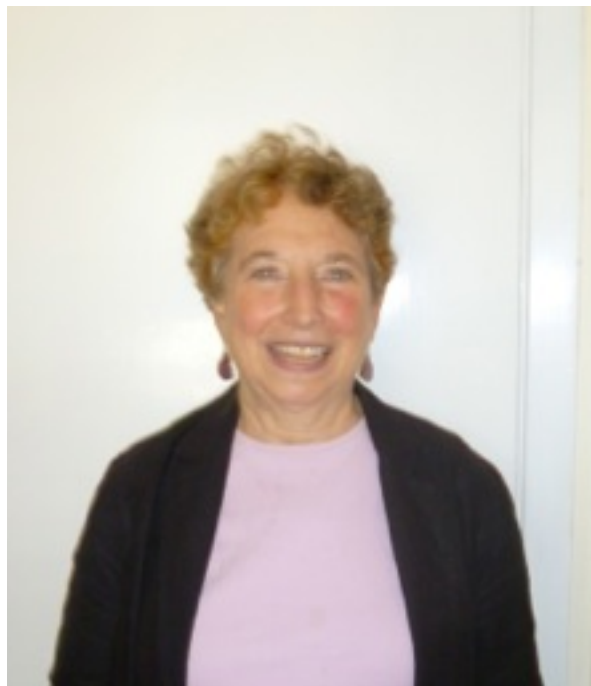
“Sign Languages as Languages”

言語としての手話 ～世界のさまざまな手話とその言語学的特徴～

講師：Susan Fischer

スーザン・フィッシャー（1972年にマサチューセッツ工科大学にてPh.D.（言語学および心理学）取得）2005年までロチェスター工科大学勤務、退官後の現在は、ニューヨーク大学客員教授、ニューヨーク市立大学大学院客員教授。1971年に手話言語の研究をはじめて以来、欧米およびアジアにおける手話言語のさまざまな特徴を対象としており、形態統語論（文法構造）の研究に加え、社会言語学的側面や言語習得や脳における言語処理、音韻論、歴史変化および類型論など、その内容は多岐にわたる。調査言語には、アメリカ手話に加え、日本や台湾、中国の手話などがある。

ウェイン州立大学のパトリシア・サイプルとともに第一回国際手話学会（TISLR, 1986年）を主催、論文集を編集。現在、アメリカ言語学会理事。国立民族学博物館（大阪）には特任教授として12月中旬まで勤務。



手話言語は、音声言語とは異なる文法体系を持つ独立した言語です。世界の様々な手話言語の共通点と相違点、音声言語との共通点と相違点についてお話しします。

- ▶ 日 時：11月17日（日）15:00~17:00
- ▶ 場 所：国立民族学博物館 第4セミナー室
- ▶ 参加費：無料
- ▶ 定 員：80名



当日、自然文化園の入り口でこのチラシを見せていただくと入園料が無料になります。

※ 講師は英語で話され、日英通訳および、手話通訳がつきます。

主催：関西学院大学 日本手話講師グループ 協力：関西日本手研究会、国立民族学博物館